嘉暦二年大日板碑

県指定有形文化財（歴史資料）

「嘉暦二年大日板碑」は、梨郷地区竹原にある龍雲院の裏山の斜面に建つ凝灰岩製の板碑（※1）です。高さ 2.6m、幅 86～99cm、厚さ 30cm の大きな石碑です。

碑面上部には「バン」と読む梵字の種子（※2）が薬研彫り（※3）で大きく刻まれています。この梵字の種子は、金剛界曼荼羅という仏様の世界を図示したものに描かれている大日如来という仏様を表しています。大日如来は真言密教の教主で、宇宙を照らす慈愛に満ちた仏様と言われています。

種子の下方には「嘉暦二季大歳丁卯三月□日　為妙輝禅尼百ヶ日也」（□の所は風化して読み取れません）の文字が刻まれていることから、真言密教の信者が、母親の妙輝禅尼（法名）の百か日法要の際に、この巨大な板碑を建てたことが推測できます。また、嘉暦 2（1327）年の鎌倉時代末期に、大きな石で供養塔婆を建てられる程の力を持った地域の豪族等が、この付近に存在していたことを示しています。なお、この場所には「円行寺」と小字名が付いていることから、円行寺という真言宗の寺院があったのかもしれません。

「嘉暦二年大日板碑」は、実に雄大で均整がとれ、堂々としていて、破損もなく、見る人を圧倒する板碑です。

※1＝供養塔の一種。

※2＝梵字とは、古代インドの文字のサンスクリット語で、種子は如来や菩薩を像の代わりに刻したもの。

※3＝断面がＶ字形になるように彫ること。

南陽市文化財保護審議委員　佐藤鎮雄

平成 28 年 12 月 1 日号　市報なんよう掲載